

〔家族看護グッドプラクティス賞〕

最優秀賞の取り組み報告

実践促進委員会

委員長 藤井 淳子

今年度も日本家族看護学会は、2024年度第2回家族看護グッドプラクティス賞を開催しました。本賞は、家族看護の将来への発展を後押しすることを目的とし、次世代の人財を育成し支援することを目指し、昨年から創設された賞です。

家族看護の実装や普及にかかる顕著な実践活動を行っている団体や個人の顕彰のため、本学会の各委員会の委員長からなる選考委員会を立ち上げ、下記6項目（表1）について審査を行いました。

表1. 審査項目

テーマの重要性	家族看護にとって貢献度が高くインパクトがある
取り組みの有用性	実践・教育現場で家族看護の発展に寄与し、実践としての効果が高いものである
取り組みの汎用性	家族看護の実践・教育の場面で可視化できるものである
取り組みの創造性	独自性があり、工夫・熱意・ユニークさが評価できるものである
取り組みの構成力	取り組みに向けての人材配置や資源分配、手順等が評価できるものである
将来発展性	今後の実践への可能性を広げる有意義な取り組みである

以下、最優秀賞を授賞した取り組み報告です。

次年度はぜひ皆さまの現場の「それいいね！がここにある 明日から“まねしてみよう”」と思える取り組みのご応募をお待ちしています。

〔家族看護グッドプラクティス賞〕

7年目を迎える東北家族ケア研究会の取り組み

加藤 久美¹⁾ 島山とも子²⁾

東北家族ケア研究会（以下研究会）の目的は臨床におけるケアの質向上である。家族ケア（患者含む）とともに組織マネジメント力の向上も目指している。研究会は、2017年4月に発足した。発足メンバーは福島県立医科大学看護学部大学院修士課程家族看護学（東北初の家族看護学修士課程）の修了生4名と教授、声をかけて参加した看護師3名の7名で始まった。教授の「大学院での学びは論文に費やす時間が多く、家族看護を実践できるスキルをトレーニングする時間が不足しているので、研究会という形で毎月学習を続けていくのはどうか」という提案を受け、家族看護実践力を高めたいという思いから発足した。名称は看護師以外にも臨床で家族ケアが実践できるメンバーを増やす目的で、家族ケア研究会と決めた。研究会ではシステムズアプローチを基本に据えている。システムズアプローチでは、任意の集合体をシステムとみなし、そのすべてを援助の対象に含む。援助の対象となるシステムと個々の家族員や家族集団に加え、援助者や上位システムである援助組織も含む（東、吉川、2001；吉川、2009）。

研究会では、吉川・東のもとでシステムズアプローチを学んだメンバーが看護の場面に応用できる著書（家族看護実践センター、2011a, 2011b, 2013）を表し、それを基本に据えて行っている。研究会は毎月第4土曜日の3時間、福島市内の学習センターで開催し、現在では看護師、保健師、MSW、PSW、医師、看護学生が参加している。コロナ禍においても1度も休まず、感染対策を講じながら7年間継続してきた。7年間で累計600人が参加した。

看護では“傾聴する”という言葉が頻繁に使われるが、学生時代も卒業してからも傾聴できるスキルが身につくトレーニングが行われることは少ない。研究会では、事例提供者が臨床での対応困難事例（患者・家族・上司・部下・他職種）を持参し、1時間事例検討を行い、理解を深め、介入の方向性を決めた後、ロールプレイを行う。ロールプレイ後、感想や意見を述べ合ったのち、ロールプレイを録画したのを見ながら、良かった点や気になった点などを全員で確認する。その後同様にロールプレイを繰り返す。研究会終了後事例提供者は事例検討・ロールプレイを録音し文字起こし後、講師（元大学教授）が事例のポイントを解説しホームページに掲載している。事例検討とロールプレイ、その後の文字起こしで更に意味づけを深め、実践力が身に付いていく。研究会参加後のアンケートでは、「自分の価値観に患者や家族を合わせようとしていた」「苦手意識がある医師だったが私の対応で医師の患者への関わりが変わることがわかった」「患者や家族に説明ばかりしていた自分に気づいた」「苦手な部下に関わるヒントが得られた」など毎回多くの学びをしており、「実践が変わった」という参加者が多い。

今回日本家族看護学会において、研究会の取り組みが評価されグッドプラクティス賞をいただいたことを励みとして、さらに家族ケア（患者を含む）、組織マネジメントの質を高めるとともに仲間を増やしていくためにも研究会の活動を益々盛り上げていきたい。

文 献

家族看護実践センター：ベッドサイドでの関係づくり，日本看護協会出版会，東京，2011a

1) 社会福祉法人恩賜財団済生会支部済生会川俣病院
2) 家族看護実践センター

家族看護実践センター：個人面接での関係づくり，日本看護協会出版会，東京，2011b
家族看護実践センター：複数面接での関係づくり，日本看護協会出版会，東京，2013

吉川 悟，東 豊：システムズアプローチによる家族療法のすすめ方，ミネルヴァ書房，京都，2001
吉川 悟：システム論から見た援助組織の協同，金剛出版，東京，2009